

# 教会月報

No.520 (2022年4月24日)

【2022年5月号】

日本キリスト教団埼玉和光教会  
〒351-0114 和光市本町 15-50

神に“養われ、憩う場”

岩河 敏宏

エゼキエル書 34 章 11 節～16 節

11 まことに、主なる神はこう言われる。見よ、わたしは自ら自分の群れを探し出し、彼らの世話を<sup>せわ</sup>する。12 牧者が、自分の羊がちりぢりになっているときに、その群れを探すように、わたしは自分の羊を探す。…(中略)…15 わたしがわたしの群れを養い、憩わせる、と主なる神は言われる。16 わたしは失われたものを尋ね求め、追われたものを連れ戻し、傷ついたものを包み、弱ったものを強くする。しかし、肥えたものと強いものを滅ぼす。わたしは公平をもって彼らを養う。

(文字飾り、下線部;筆者)

「聖書」とは？との問いに一言で答えるのは難しいですが、敢えて言えば「私たちの肉眼では捉えることのできない、“神”の本質について記されたもの」となるのでしょうか。では、“神”の本質とは何？となるでしょう。そこで紹介したいのが、冒頭の聖句です。

ここでは「わたし」、つまり「民の牧者」である神が、自分の羊(私たち)にどう向き合っているかを、冒頭の聖句に主語の“わたし(神)”とその動詞に着目し色付けました。11 節は、「わたしは探し出し、世話を<sup>せわ</sup>する」となります。以下も同様にして、読んでみて

下さい。最後の 16 節は、「わたしは尋ね求め、連れ戻し、包み、強くする。わたしは養う」です。神の私たち人間に対する想いの一端を、ここから感じてもらえれば幸いです。

神の私たちに対するこの動作は、全く想像外ということではないでしょう。人間は、一人では存在することが出来ません。誕生した命は、誰かから世話を<sup>せわ</sup>受け、養われなければなりません。私たちは、これまで養われたから、今があります。また、それぞれの歩みにおいても、迷ったり疲れを覚えることがあります。そのような時に神は、探し出し養い憩わせ、また、連れ戻し包み強くする、<sup>せわ</sup>と言い行動されます。

私たちは、そのような神の護りがある、と信頼しています。だとしたら、「道に迷うまい」と必要以上に力むことはありません。迷い、疲れた時には、神が探し出して下さるから、必要以上に「～でなければ」と力むことなく、自然体でいることが出来ればと感じています。神に養われ、憩う場として埼玉和光教会があることを再度心に留めて頂ければ、と祈ります。お一人おひとりの魂の養いのために、何が<sup>せわ</sup>必要かを<sup>せわ</sup>知っておられる神にのみ信頼し、歩みましょう。